

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オビトカゲモドキ

Goniurosaurus splendens (Nakamura et Uéno, 1959)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026. オビトカゲモドキ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 126-130.

Citation: Toda, M., 2026. *Goniurosaurus splendens* (Nakamura et Uéno, 1959). In: Ministry of the
Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 126-130.

オビトカゲモドキ

Goniurosaurus splendens (Nakamura et Uéno, 1959)

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) D2				
基準 A: —	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: VU	基準 E: —
D2. 生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている。				
【判断理由】				
農地開発などにより生息環境は悪化している。1 つの島にしか分布しておらず、ペットとして人気があり、販売のための違法採集がなされている可能性が高いことも考えると、現在の生息地面積が種の存続の観点から十分広い状態にあるとは言えない。				
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会				

概要

奄美諸島徳之島の固有種で、おもに常緑広葉樹林に覆われた山地とその周辺に見られる。他の同属種との分岐は古く、系統的固有性が高い種として位置づけられる。生息地の環境改変は続いており、個体群のさらなる縮小が懸念される。

基礎情報

【形態】

成体の頭胴長は普通 65～81 mm ほどで、国産の他の同属種に比べてやや小さく、胴の模様が横帯を基調とする点でイハヤトカゲモドキ (*Goniurosaurus toyamai*) に似るが、本種は明らかに細身の体型をしている。生体の虹彩は赤褐色ないし赤味がかった暗褐色。背面の地色は黒褐色で、胴部には淡桃色の横帯が 3 本ある一方、ケラマトカゲモドキ (*Goniurosaurus sengokui*) などに見られるような淡色の縦条成分はない。これらの横帯の間の暗色部には、淡色の斑紋等はほとんど見られない。腹面は淡褐色で、胸部の鱗は互いに重ならず敷石状である点で他の種と区別できる。

【生活史】

おもに 5～9 月の夜間に活動中の個体が多く観察される。博物館標本の観察から、少なくとも 6 月上旬～7 月中旬にかけて輸卵管卵をもったメスが現われ、一度に 2 個産卵することが分かっている。飼育下での観察により、卵は硬い卵殻をもたず、その大きさは 19×11 mm 程度であること、ふ化までに 2 ヶ月～2 ヶ月半を要すること、飼育条件下では 1 ヶ月ほどの間隔で 1 シーズンに 3 回は産卵すること、ふ化幼体の全長は 55～60 mm であることなどが知られている。世代期間は不明。オスは、飼育下では排他性があるようである。野外での直接観察や博物館標本の調査結果から、おもにミミズや昆虫の幼虫など地上性の小型無脊椎動物を捕食するとされる。

【生息環境】

おもに常緑広葉樹の自然林や回復の進んだ二次林に生息するが、森林に隣接した農耕地や住宅地周辺などにも出現する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林
	【陸域_平地部】森林、耕作放棄地
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

奄美諸島の徳之島に固有。他の同属種は沖縄諸島の沖縄島およびその西側の島々に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

資料が少なく、分布域の経時的な変化については詳しくは分らないが、徳之島の中部や南部で土地改良が進み、分布域は狭まっていると考えられる。

【生息地の現況】

土地改良により、とくに低地で生息地の消失、あるいは断片化が進んでいる。

【個体数の現況】

資料が少なく、個体数やその変化について具体的な推定値を出すことはできないが、生

息適地は明らかに減少していることから、個体数も減少傾向にあると考えられる。

存続を脅かす要因

農業用の土地改良、道路の敷設や拡張・整備、森林伐採による生息地の縮小のほか、販売を目的とした違法捕獲も行われている可能性が高く、個体群への影響が懸念される。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，違法採集
	(現在)	森林伐採，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，違法採集

特記事項

本種を含む琉球産トカゲモドキ類は奄美・沖縄諸島のなかで地理的に細かく分化しており、同地域における生物多様性創出の過程を解明するうえで学術的に高い価値がある。そのなかで本種はいち早く分化したと考えられており、他種との比較の文脈で学術的に高い価値を持つ。鹿児島県の天然記念物に指定されている。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus splendens</i>	EN
第4次 2019:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus splendens</i>	EN
第4次 2018:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus splendens</i>	EN
第4次 2017:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus splendens</i>	EN
第4次 2015:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie splendens</i>	EN
第4次:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie splendens</i>	EN
第3次:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie splendens</i>	EN
第2次:	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie splendens</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

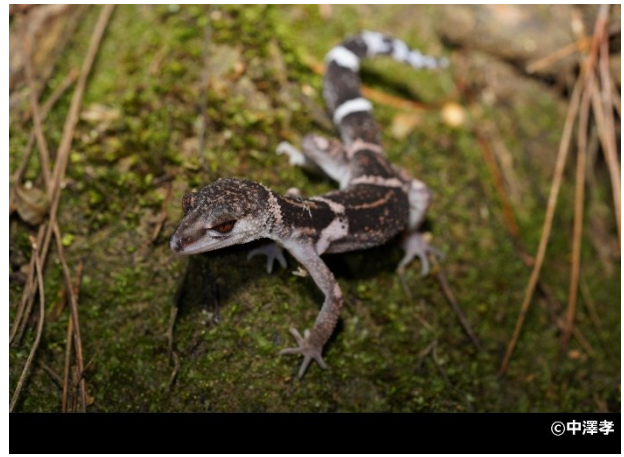
- Grismer, L. L., H. Ota, and S. Tanaka, 1994. Phylogeny, classification, and biogeography of *Goniurosaurus kuroiwa* (Squamata: Eublepharidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan, with description of a new subspecies. Zool. Sci., 11: 319–335.
- Henkel, F. W. and W. Schmidt, 1995. Geckoes: Biology, Husbandry, and Reproduction. Krieger, Florida. 237pp.
- Honda, M., T. Kurita, M. Toda, and H. Ota, 2014. Phylogenetic relationships, genetic divergence, historical biogeography and conservation of an endangered gecko, *Goniurosaurus kuroiwa* (Squamata: Eublepharidae), from the Central Ryukyus, Japan. Zool. Sci., 31: 309–320.
- Janssen, J. and C. R. Shepherd, 2019. Trade in endangered and critically endangered Japanese herpetofauna endemic to the Nansei Islands warrants increased protection. Curr. Herpetol., 38: 99–109.
- Kaverkin, J., S. Mamet, and M. Toriba, 1994. Husbandry and reproduction of the eublepharid gecko *Goniurosaurus kuroiwa* *splendens* in captivity. Akamata, 10: 23–36.
- 栗田隆気, 2021. オビトカゲモドキ. 日本爬虫両棲類学会 (編), 新日本両生爬虫類図鑑, pp. 108. サンライズ出版, 彦根.
- 太田英利, 2003. オビトカゲモドキ. 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物-動物編 - 鹿児島県レッドデータブック, pp. 84. 鹿児島県環境生活部環境保護課, 鹿児島県.
- 戸田守, 2014. オビトカゲモドキ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-3 爬虫類・両生類. pp. 14-15. ぎょうせい, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Goniurosaurus splendens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goniurosaurus splendens* is listed as VU under criteria D2.

D2. Population with a very restricted area of occupancy (typically less than 20 km²) or number of locations (typically five or fewer) such that it is prone to the effects of human activities or stochastic events within a very short time period in an uncertain future, and is thus capable of becoming Critically Endangered or even Extinct in a very short time period.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Abandoned farmland
Threat types:	Logging and wood harvesting, Field preparation, Land development, Transportation infrastructure construction, Illegal harvesting of biological resources
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.



執筆者:	戸田守 (琉球大学)
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月